



2008-2009年度ROTEX会長

上村 修一郎

スピーチコンテストは毎年、来日学生の日本語能力がどれだけ成長したかを発表してもらう場であり、なおかつ交換プログラムで過ごした一年間がどのようなものだったかをロータリアンの方、ホストファミリーの方、そしてROTEXに伝える場として、毎年6月に開催しております。

毎年少なくとも一人は突出して日本語が上手な来日学生がいますが、全員が日本語で自然にスピーチをしていて、審査員の方々は甲乙つけがたいとおっしゃっております。実際目をつぶって来日学生のスピーチを聞いていると、まるで日本人がスピーチをしているような錯覚に陥ることもしばしばあります。

最初にスピーチをしたセリーヌは緊張の余り声が震えていました。セリーヌは母国で日本語を勉強してきたのですが、そこでは標準語を習っていたので、大阪に来て関西弁ばかりでびっくりしたみたいです。

二番手のアントニーは、アニメや漫画が好きで、日本に来て最初に食べたものはたこ焼きを食べたみたいです。最後の締めには「さよならじゃなくて、また会いましょう」とかっこいい言葉を残しました。

三番目にスピーチをしたオーブリーは、スピーチが大嫌いだと言っていました。日本に来て、たくさんスピーチをする機会があり、スピーチを作るのは得意になったみたいです。最後まで嫌いだと言っていました。

四番目にはパトリアがロータリーの関係で様々な場所へ旅行に行った時のことのスピーチをしました。特に、広島旅行では原爆記念館や千羽鶴を奉納したことが印象に残っていたみたいで、京都に旅行をした時には文化遺産などに興味を持ったというスピーチをしました。

最後に、ジャヒが関西弁を交えながら主に学校のことに関してスピーチをしました。ジャヒは学校で、ハンドボール部に所属していて、そこであった楽しいことや友達との事、学校が早く終われば友達と遊びにいけるなど、日本人の高校生と見まがわないスピーチでした。

表彰では、全員に賞が行き渡るようにしたのですが、トロフィーなどの贈呈もあり、やはり自分が負けたという認識の来日学生もいたのが残念でしたが、全員が全員上手な日本語でスピーチをしていたので本来の目標は達成されたと思います。

来日学生全員、日本に来たばかりの時には挨拶すら日本語でできなかったのですが、今回のスピーチコンテストでは挨拶どころか、自分の日本に滞在していた1年間の感想を述べるができるようになっていきます。日本で学んだ文化や、言語の成長を垣間見ることができるイベントとしてこれからも続けていきたいと思っています。

